

ボランティア実践I				単位数	2単位
授業コード	10265	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中井 俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習／3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。 この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。 さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	災害被災者やハンセン病元患者、生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することがない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%			1／2／3／4／5	
2	レポート 20%			1／2／3／4／5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 講義・演習 1. はじめてのボランティア 2. 国際支援活動とボランティア 3. ボランティア活動を始めるために 4. 赤十字活動とボランティア 5. 公民館活動とボランティア 6. 子育て支援活動とボランティア 7. ボランティア・NPO活動の窓口 8. ハンセン病の歴史とボランティア					
II 体験学習（予定） 9～14 ・岡山県ボランティア・NPO活動支援センター訪問（岡山市内） ・原則として、授業中に紹介したボランティア活動の中から選択して参加する					
III 体験学習の振り返り 15. まとめと振り返り					

試験等
課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
授業の最終日に実践をまとめて発表する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）普段から報道等で日々のニュース、時事問題の情報を得ておくこと。 （復習）毎回の授業でその都度必要な参考図書、参考ホームページ情報を紹介する。これらの事前、事後の学習に各 1 時間程度要する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
オフィスアワー 木曜日 3・4 時限 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
nakai@m.ndsu.ac.jp （◎を@に変更してください。）
留意事項
学外体験学習先までの交通費等が必要になる場合があります。 土曜又は日曜に実施される学外体験学習があります。実施日程等については、授業時にお知らせします。

ボランティア実践A					単位数	2単位
授業コード	10270	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第 1 期	
担当者氏名	中井 俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	2 演習／3 実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。 この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。 さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。						
アクティブラーニングの実施内容		体験学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	災害被災者やハンセン病元患者、生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することがない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べることができる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%				1／2／3／4／5	
2	レポート 20%				1／2／3／4／5	
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
Ⅰ 講義・演習 1. はじめてのボランティア 2. 国際支援活動とボランティア 3. ボランティア活動を始めるために 4. 赤十字活動とボランティア 5. 公民館活動とボランティア 6. 子育て支援活動とボランティア 7. ボランティア・NPO活動の窓口 8. ハンセン病の歴史とボランティア Ⅱ 体験学習（予定） 9～14 ・岡山県ボランティア・NPO活動支援センター訪問（岡山市内） ・原則として、授業中に紹介したボランティア活動の中から選択して参加する Ⅲ 体験学習の振り返り 15. まとめと振り返り						

日本語表現Ⅰ				【単位数】		2単位	
授業コード	12145	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第1期		
担当者氏名	村中 李衣						
時間割備考							
授業形態（主）	1 講義						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
日頃何気なく用いているひとつひとつの「日本語」に着目し、その語源や基本的運用法を確認したうえで、日本語初心者や外国人学習者にも理解できるような「日本語キャラクター図鑑」を受講生全員で作成する。 日本語ジャンルとして、「挨拶の日本語」「心を伝える日本語」「語りの日本語」「季節を伝える日本語」の4部門を設定し、その4部門の中から扱う語彙を選ぶ。 最終的には、作成した「日本語キャラクター図鑑」の効果検証を、オンラインで子どもたちと交流しながら行い、日本語の美しさや魅力について再確認する。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク					
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	日本語の語源や発展の歴史を正しく理解できる						
2	しなやかな表現で日本語の特質を伝えることができる						
3	日本語学習初心者を意識してわかりやすく解説できるようなテキストの作成方法を工夫できる。						
4							
5							
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		
1	日本語の基本的理解と表現力向上のためのワークシート達成度 50%						
2	「日本語図鑑」作成のためのグループディスカッションにおける貢献度 50%						
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
児童文学作家として『ふしぎのくにの日本語』（教育出版）や『なんかへんだを手紙で伝える』（玉川大学出版局）等を作成し、現場で日本語についてのワークショップを全国で実施してきている。この経験を活かし、個々の学習者に適した日本語表現を指導し、ワークショップも展開する。							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
1、日本語を改めて意識する 2、時を超えて日本語はどう変化してきたか 3、「挨拶の日本語」を見つめ直す 4、「挨拶の日本語」データ収集とディスカッション 5、「心を伝える日本語」を見つめ直す 6、「心を伝える日本語」データ収集とディスカッション 7、「語りの日本語」を見つめ直す 8、「語りの日本語」データ収集とディスカッション 9、「季節を伝える日本語」を見つめ直す 10、「季節を伝える日本語」データ収集とディスカッション 11、「日本語のキャラクター図鑑」作成計画 12、作成経過の確認と批評 13、「日本語キャラクター図鑑」完成に向けた修正作業 14、「キャラクター図鑑」の公表・交流 15、交流成果の確認：日本語遣いの達人になるために必要なこと							

試験等
授業回4, 6, 8, 10において、授業終了後、各自が作成したワークシートを提出する。 授業回15終了後に、最終レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
授業終了後のワークシートについてはアドバイスも含めて後日返却。 最終レポート講評はマナバにおいて実施する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
第一回目、二回目は、予習として、テキストを事前に読み、日本語についての自身の知識や漠然とした理解の中で見過ごされていたものを自覚する（約1時間） 第三回目以降は、授業内で課せられた各ジャンルごとの日本語課題について、自分なりの振り返りと提案をまとめ、復習とする（約1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日本文化キャラクター図鑑「日本語」ことばは時をこえる！ 村中李衣文 おくやまひでとし絵 玉川大学出版部 ISBN:978-4-472-05946-9
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp(村中)
留意事項
これまで意識されていなかった「日本語」の魅力を、自身の表現力を用いながら豊かに見つけていきましょう。 書くことや読むことが苦手でも、まったく大丈夫です。

日本語表現A				【単位数		2単位	
授業コード	12147	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第 1 期		
担当者氏名	村中 李衣						
時間割備考							
授業形態（主）	1 講義						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
日頃何気なく用いているひとつひとつの「日本語」に着目し、その語源や基本的運用法を確認したうえで、日本語初心者や外国人学習者にも理解できるような「日本語キャラクター図鑑」を受講生全員で作成する。 日本語ジャンルとして、「挨拶の日本語」「心を伝える日本語」「語りの日本語」「季節を伝える日本語」の4部門を設定し、その4部門の中から扱う語彙を選ぶ。 最終的には、作成した「日本語キャラクター図鑑」の効果検証を、オンラインで子どもたちと交流しながら行い、日本語の美しさや魅力について再確認する。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク					
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		
1	日本語の語源や発展の歴史を正しく理解できる						
2	しなやかな表現で日本語の特質を伝えることができる						
3	日本語学習初心者を意識してわかりやすく解説できるようなテキストの作成方法を工夫できる。						
4							
5							
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		
1	日本語の基本的理解と表現力向上のためのワークシート達成度 50%						
2	「日本語図鑑」作成のためのグループディスカッションにおける貢献度 50%						
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
児童文学作家として『ふしぎのくにの日本語』（教育出版）や『なんかへんだを手紙で伝える』（玉川大学出版局）等を作成し、現場で日本語についてのワークショップを全国で実施してきている。この経験を活かし、個々の学習者に適した日本語表現を指導し、ワークショップも展開する。							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
1、日本語を改めて意識する 2、時を超えて日本語はどう変化してきたか 3、「挨拶の日本語」を見つめ直す 4、「挨拶の日本語」データ収集とディスカッション 5、「心を伝える日本語」を見つめ直す 6、「心を伝える日本語」データ収集とディスカッション 7、「語りの日本語」を見つめ直す 8、「語りの日本語」データ収集とディスカッション 9、「季節を伝える日本語」を見つめ直す 10、「季節を伝える日本語」データ収集とディスカッション 11、「日本語のキャラクター図鑑」作成計画 12、作成経過の確認と批評 13、「日本語キャラクター図鑑」完成に向けた修正作業 14、「キャラクター図鑑」の公表・交流 15、交流成果の確認：日本語遣いの達人になるために必要なこと							

試験等
授業回4, 6, 8, 10において、授業終了後、各自が作成したワークシートを提出する。 授業回15終了後に、最終レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
授業終了後のワークシートについてはアドバイスも含めて後日返却。 最終レポート講評はマナバにおいて実施する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
第一回目、二回目は、予習として、テキストを事前に読み、日本語についての自身の知識や漠然とした理解の中で見過ごされていたものを自覚する（約1時間） 第三回目以降は、授業内で課せられた各ジャンルごとの日本語課題について、自分なりの振り返りと提案をまとめ、復習とする（約1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日本文化キャラクター図鑑「日本語」ことばは時をこえる！ 村中李衣文 おくやまひでとし絵 玉川大学出版部 ISBN:978-4-472-05946-9
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp(村中)
留意事項
これまで意識されていなかった「日本語」の魅力を、自身の表現力を用いながら豊かに見つけていきましょう。 書くことや読むことが苦手でも、まったく大丈夫です。

日本語表現II				【単位数】		2単位		
授業コード		12150	科目ナンバリング		160Z0-1234-o2	開講年度学期		2024年度第2期
担当者氏名		小林 修典						
時間割備考								
授業形態（主）		2 演習						
授業形態（副）								
担当形態		単独						
研究分野（大学院）								
本授業の概要								
この授業では、学術的な小論文の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。 自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に読み手に伝える技術を身に付ける。 また、資料を適切に小論文で紹介、引用する方法を学ぶ。								
アクティブラーニングの実施内容								
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	1 与えられたテーマで小論文（600字程度）を完成できる。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	2 自ら選んだテーマで小論文（800字程度）を完成できる。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3								
4								
5								
成績評価の基準						対応する到達目標の番号		
1	課題 （授業時に提出） 40%					1		
2	学期末に提出する小論文 800字程度 （期末試験に相当） 60%					2		
3								
4								
5								
実務経験のある教員による授業科目								
実務経験の授業への活用方法								
日本語以外の言語による授業								
授業予定一覧								
I インTRODクシOn 1 段落 2 論文の文章 II 小論文の作文（1） 3 環境問題 4 少子化 5 教育格差 6 食の安全 7 児童福祉 III 資料の要約と引用 8 要約 9 引用 IV 小論文作成（2） 10 外国人労働者 11 自然災害 12 日本の農業 13 スポーツ V まとめ 14 自由課題の発表 グループ1 15 自由課題の発表 グループ2								

試験等
定期試験期間中に小論文（800字程度）を提出する。
試験のフィードバックの方法
添削して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・与えられたテーマにそって考えをまとめ、600字の論文を書いて授業時に提出する。（4時間） ・復習として、論文への批評やコメントを検証する。（30分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要に応じて、印刷物を配布する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
1 授業の目的 1) 授業予定一覧に掲げられたテーマについて論文を書くが、この授業の目的は、テーマについて知識を得たり、理解を深めたりすることではない。論文を書く方法を学ぶことである。テーマはあくまでも、話題にすぎない。 2) この授業で学ぶ論文のスタイルは、主として、社会科学の分野でのレポートや学術論文に求められるものである。したがって、随筆などの文学的文章は対象としない。客観的視点での論理的な文章の展開方法や、それにふさわしい文章表現法を学ぶ。 3) 個性的・独創的なスタイルではなく、論文としての約束事に従った文章を書く。論文の「型」の習得を目指す。 4) テーマをどのようにしぼるか、どのようにして自分の考えをまとめるか、というレベルから始める。 2 授業の進め方 1) 学生は、定められたテーマに関する600字の小論文を9回、800字程度の論文を1回提出する。 2) 提出された小論文は、毎回、クラスの学生全員で相互に批評する。 3 授業の登録について 定員は10名とする。

日本語表現B				【単位数】		2単位	
授業コード	12157	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期		
担当者氏名	小林 修典						
時間割備考							
授業形態（主）	2 演習						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
この授業では、学術的な小論文の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。 自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に読み手に伝える技術を身に付ける。 また、資料を適切に小論文で紹介、引用する方法を学ぶ。							
アクティブラーニングの実施内容							
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	1 与えられたテーマで小論文（600字程度）を完成できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	2 自ら選んだテーマで小論文（800字程度）を完成できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3							
4							
5							
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		
1	課題 （授業時に提出） 40%				1		
2	学期末に提出する小論文 800字程度 （期末試験に相当） 60%				2		
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目							
実務経験の授業への活用方法							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
I インTRODクシOn 1 段落 2 論文の文章 II 小論文の作文（1） 3 環境問題 4 少子化 5 教育格差 6 食の安全 7 児童福祉 III 資料の要約と引用 8 要約 9 引用 IV 小論文作成（2） 10 外国人労働者 11 自然災害 12 日本の農業 13 スポーツ V まとめ 14 自由課題の発表 グループ1 15 自由課題の発表 グループ2							

試験等
定期試験期間中に小論文（800字程度）を提出する。
試験のフィードバックの方法
添削して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・与えられたテーマにそって考えをまとめ、600字の論文を書いて授業時に提出する。（4時間） ・復習として、論文への批評やコメントを検証する。（30分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要に応じて、印刷物を配布する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
1 授業の目的 1) 授業予定一覧に掲げられたテーマについて論文を書くが、この授業の目的は、テーマについて知識を得たり、理解を深めたりすることではない。論文を書く方法を学ぶことである。テーマはあくまでも、話題にすぎない。 2) この授業で学ぶ論文のスタイルは、主として、社会科学の分野でのレポートや学術論文に求められるものである。したがって、随筆などの文学的文章は対象としない。客観的視点での論理的な文章の展開方法や、それにふさわしい文章表現法を学ぶ。 3) 個性的・独創的なスタイルではなく、論文としての約束事に従った文章を書く。論文の「型」の習得を目指す。 4) テーマをどのようにしぼるか、どのようにして自分の考えをまとめるか、というレベルから始める。 2 授業の進め方 1) 学生は、定められたテーマに関する600字の小論文を9回、800字程度の論文を1回提出する。 2) 提出された小論文は、毎回、クラスの学生全員で相互に批評する。 3 授業の登録について 定員は10名とする。

日本語表現III				単位数	2単位
授業コード	12160	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	村中 李衣				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
名文ではなく、自分らしい日本語表現を体得できるための具体的なレッスンを重ねていく。最終的には、随筆、詩、短歌、童話等ジャンルを問わず、他者の心に響く創作に挑戦し、全員で講評する。また、よい文章を見分ける批評眼も養い、さまざまな実社会での文章作成の要求に対応できる力を養う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	目的に沿った自分らしい日本語表現ができる。			知識・技能	
2	飾り立てた日本語表現でなく、わかりやすく他者の心に響く日本語を用いて文章が書ける表現力を体得している			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	他者の批評を参考にしながら、自身の納得のいく自己表現の結晶として、作品を仕上げることができる			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	テキストに沿った12のワークの達成度 60%			1／2／3	
2	最終提出課題 40%			3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
児童文学の実作者として、作品を仕上げるために必要な技法とその習得の仕方を具体的な例を挙げながら毎回指導していく					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1、日本語で表現する面白さと難しさについて 2、素材の収集法について 3、自分の言葉を持つ 4、独自の視点を持つ 5、「書きたいこと」を見つける 6、キャラクター設定の手法 7、起承転結神話を壊す 8、自分の表現設計図を創る 9、出だしの400字を点検する 10、書けるところまで書いてみる 11、何が足りないのかを発見する 12、「日本語表現」の核がぶれていないか、自分の表現を点検する 13、他者の「日本語表現」の核を見極める 14、それぞれの作品を味わう 15、改めて日本語で表現する面白さと難しさについて考える					

試験等
15回目の授業終了後に最終レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manaにて、各自の最終レポートについての講評とアドバイスを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各授業終了後に、授業の復習と次回授業に繋がる課題を指示する。その課題に取り組むことをもって、予習復習の時間とする。（毎回1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中季衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中季衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受け付ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中）
留意事項
文章を書くのが苦手な人こそぜひ。名文書きになる必要はありません。日本語遣いが楽しくなるようにいっしょに工夫しながら授業を進めていきましょう。

日本語表現C				単位数		2単位	
授業コード	12165	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期		
担当者氏名	村中 李衣						
時間割備考							
授業形態（主）	1 講義						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
名文ではなく、自分らしい日本語表現を体得できるための具体的なレッスンを重ねていく。最終的には、随筆、詩、短歌、童話等ジャンルを問わず、他者の心に響く創作に挑戦し、全員で講評する。また、よい文章を見分ける批評眼も養い、さまざまな実社会での文章作成の要求に対応できる力を養う。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション					
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	目的に沿った自分らしい日本語表現ができる。				知識・技能		
2	飾り立てた日本語表現でなく、わかりやすく他者の心に響く日本語を用いて文章が書ける表現力を体得している				知識・技能／思考・判断・表現力		
3	他者の批評を参考にしながら、自身の納得のいく自己表現の結晶として、作品を仕上げることができる				思考・判断・表現力／主体性		
4							
5							
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		
1	テキストに沿った12のワークの達成度 60%				1／2／3		
2	最終提出課題 40%				3		
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
児童文学の実作者として、作品を仕上げるために必要な技法とその習得の仕方を具体的な例を挙げながら毎回指導していく							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
1、日本語で表現する面白さと難しさについて 2、素材の収集法について 3、自分の言葉を持つ 4、独自の視点を持つ 5、「書きたいこと」を見つける 6、キャラクター設定の手法 7、起承転結神話を壊す 8、自分の表現設計図を創る 9、出だしの400字を点検する 10、書けるところまで書いてみる 11、何が足りないのかを発見する 12、「日本語表現」の核がぶれていないか、自分の表現を点検する 13、他者の「日本語表現」の核を見極める 14、それぞれの作品を味わう 15、改めて日本語で表現する面白さと難しさについて考える							

試験等
15回目の授業終了後に最終レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manaにて、各自の最終レポートについての講評とアドバイスを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各授業終了後に、授業の復習と次回授業に繋がる課題を指示する。その課題に取り組むことをもって、予習復習の時間とする。（毎回1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中季衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中季衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受け付ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中）
留意事項
文章を書くのが苦手な人こそぜひ。名文書きになる必要はありません。日本語遣いが楽しくなるようにいっしょに工夫しながら授業を進めていきましょう。

日本語表現Ⅴ				単位数	2単位
授業コード	12185	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。 全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く（聞く）」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分～1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー」「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題（35%）			1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4／5	
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶということ（森田） 2. 伝える力・聞く（聴く）①～自己紹介①（森田） 3. 伝える力・聞く（聴く）②～自己紹介②（森田） 4. 非言語がもつ力～表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは（森田） 5. 「身近なく仕事人（びと）」にインタビュー」①～準備、依頼の仕方（森田） 6. 「身近なく仕事（びと）」にインタビュー」②～相手の話を引き出す質問（森田） 7. 書く力・読む力～新聞、情報誌から見る「伝わる文章」（久保田） 8. 「おすすめの岡山」を書く①～文章作成（久保田） 9. 「おすすめの岡山」を書く②～口頭発表（久保田） 10. 「身近なく仕事人（びと）」にインタビュー」③～進捗確認、インタビューの課題点を探る（森田） 11. 「おすすめの岡山」を書く③～まとめ（久保田） 12. 『やさしい日本語』とは①～日本語表現と『やさしい日本語』の共存（森田） 13. 『やさしい日本語』とは②～『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習（森田） 14. 「身近な仕事人（びと）」にインタビュー」④～口頭発表（森田） 15. 定期試験（口頭発表） 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど					

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おすすめの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考資料>
・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

日本語表現D				単位数	2単位
授業コード	12190	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。 全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く（聞く）」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分～1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー」「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題（35%）			1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4／5	
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶということ（森田） 2. 伝える力・聞く（聴く）①～自己紹介①（森田） 3. 伝える力・聞く（聴く）②～自己紹介②（森田） 4. 非言語がもつ力～表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは（森田） 5. 「身近なく仕事人（びと）」にインタビュー」①～準備、依頼の仕方（森田） 6. 「身近なく仕事（びと）」にインタビュー」②～相手の話を引き出す質問（森田） 7. 書く力・読む力～新聞、情報誌から見る「伝わる文章」（久保田） 8. 「おすすめの岡山」を書く①～文章作成（久保田） 9. 「おすすめの岡山」を書く②～口頭発表（久保田） 10. 「身近なく仕事人（びと）」にインタビュー」③～進捗確認、インタビューの課題点を探る（森田） 11. 「おすすめの岡山」を書く③～まとめ（久保田） 12. 『やさしい日本語』とは①～日本語表現と『やさしい日本語』の共存（森田） 13. 『やさしい日本語』とは②～『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習（森田） 14. 「身近な仕事人（びと）」にインタビュー」④～口頭発表（森田） 15. 定期試験（口頭発表） 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど					

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おすすめの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考資料> ・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

日本語表現Ⅵ					単位数	2単位
授業コード	12195	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期	
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	2 演習					
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く（聞く）」「伝える」の演習を繰り返す。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる				思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）				1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）				1／3／4	
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題（35%）				1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）				1／2／3／4	
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的（森田） 2. 伝える力と構成力 ～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察（久保田） 3. 聞く（聴く）力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは（森田） 4. 聞く（聴く）力②～「質問の種類」（久保田） 5. 他己紹介①～他者を取材するポイントと他者取材（森田） 6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする（口頭発表）（森田） 7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する（文章表現）（久保田） 8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方（森田） 9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード（森田） 10. 電話応対～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現（森田） 11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しにくかったか」の考察（森田） 12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方（久保田） 13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう（森田） 14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表（森田） 15. 定期試験（口頭発表） 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど						

試験等
1 5 週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・ 授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・ 授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・ 「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・ 試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・ 授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分） ・ 毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分） ・ 予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考資料＞
・ 授業でプリントを配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・ 本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・ マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・ 授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・ 定員は60名とする

日本語表現E				単位数	2単位
授業コード	12200	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く（聞く）」「伝える」の演習を繰り返す。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4	
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題（35%）			1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4	
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的（森田） 2. 伝える力と構成力 ～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察（久保田） 3. 聞く（聴く）力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは（森田） 4. 聞く（聴く）力②～「質問の種類」（久保田） 5. 他己紹介①～他者を取材するポイントと他者取材（森田） 6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする（口頭発表）（森田） 7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する（文章表現）（久保田） 8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方（森田） 9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード（森田） 10. 電話応対～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現（森田） 11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しにくかったか」の考察（森田） 12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方（久保田） 13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう（森田） 14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表（森田） 15. 定期試験（口頭発表） 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど					

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分） ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分） ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考資料＞
・授業でプリントを配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

共生と文化を考える				単位数	2単位
授業コード	12896	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
人間は、世界のどこにいても同じように考え、暮らしているわけではない。また社会も、背景、信条・価値観、属性などが異なる多様な個人で構成されている。グローバル化に伴う人の移動が加速する昨今、自己・自集団と他者・他集団とのあいだに生ずる「違い」や「違和感」とどう向き合いながら共生していくのが急速に模索されている。そのひとつの手がかりとなるのが、文化人類学的な思考である。 本科目では、世界各地のさまざまな環境に生きる人々が、人間、動植物、物事とどのように向き合い、社会生活を営んでいるのかを探究する文化人類学の基礎的な考え方やものの見方を学んでいく。そして、人類と文化の多様性と普遍性、豊かさの可能性を考えていく。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	国内外の多様なニュース、新聞記事、文献等の情報に接し、身の回りの物事を複数の視点から検討できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	自分にとっての「当たり前」や「正しさ」を批判的に考察できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自己・自文化と他者・他文化の共通性や関連性を見出し、論理的かつ具体的に説明できる。			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 10%			1／2／3	
2	リアクションペーパー 30%			2／3	
3	中間レポート 30%			1／2／3	
4	期末レポート 30%			1／2／3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. イントロダクション 2. 文化とは 3. 文化人類学のあゆみ 4. 他者・他文化と出会う 5. フィールドワークと民族誌 6. 「民族」と「人種」 7. 経済・生業と贈与・交換 8. 「性」とは 9. 家族のかたち 10. 宗教、呪術、科学 11. 通過儀礼 12. 生、死、「病気」 13. モノの扱われ方 14. 食文化 15. まとめ					

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義で扱う内容に関連するニュース、新聞記事、書籍を検索し、読む（1時間）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、紹介された書籍を読む（1時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 <参考書> ・インゴルド、ティム『人類学とは何か：他者と“ともに”学ぶこと』奥野克巳・宮崎幸子（訳）、垂紀書房、2021 ・松村圭一郎『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版、2020 * その他は授業時またレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・ 定員を50人とする。 ・ manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・ 履修者数や履修者の理解度等に応じて、授業形式やスケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・ 座学を中心とした科目ではあるが、高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではない。自分の考えや感覚・感情に固執せず、多様な観点から考えようとする姿勢が求められる。

自立力育成ゼミⅠ [a]					単位数	2単位
授業コード	12931	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第 1 期	
担当者氏名	Christopher Creighton					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／複数					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
The Inujima Experience program is designed around the principles of Social Design, which involves creating solutions that address social issues with a focus on sustainability, community involvement, and enhancing quality of life. This course offers students a unique opportunity to explore these themes on Inujima, an island in the Seto nai kai that is part of Okayama city and that has undergone significant transformation from industrial decline to cultural revitalization. The island's context provides rich insights into community resilience, environmental sustainability, and the role of art in societal change. Students will engage in a mix of individual research, paired explorations, and group projects, including workshops, community engagement efforts, and environmental studies. A significant component involves interacting with Inujima's elderly residents, offering valuable perspectives on traditional ways of life and the impact of social change. In addition, students will have the chance to work with groups of exchange students which will offer significant, real-world chances to practise International Communication. This program not only aims to deepen students' understanding of Social Design in an international setting but also to reflect on their potential roles in society through direct community involvement.						
犬島体験プログラムはソーシャル デザインの原則に基づいて設計されており、持続可能性、コミュニティへの参加、生活の質の向上に焦点を当てて社会問題に対処するソリューションを作成することが含まれます。このコースは、岡山市の一部であり、産業の衰退から文化の活性化へと大きな変化を遂げた瀬戸内海にある犬島で、これらのテーマを探究するユニークな機会を学生に提供します。この島の状況は、コミュニティの回復力、環境の持続可能性、社会変化における芸術の役割についての豊かな洞察を提供します。学生は、個人の調査、ペアでの調査、ワークショップ、地域社会への取り組み、環境調査などのグループプロジェクトを組み合わせで取り組みます。重要な要素には犬島の高齢者住民との交流が含まれており、伝統的な生活様式や社会変化の影響について貴重な視点を提供します。さらに、学生は交換留学生のグループと協力する機会があり、国際コミュニケーションを実践するための有意義な現実世界の機会を提供します。このプログラムは、国際的な環境において学生がソーシャルデザインについて理解を深めることを目的とするだけでなく、コミュニティへの直接的な関与を通じて、社会における学生の潜在的な役割について考えることも目的としています。						
アクティブラーニングの実施内容		発見学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Develop Social Design Solutions: students will improve their knowledge of the principles of Social Design and develop their skills in implementing Social Design solutions for real-world problems focusing on sustainability and community engagement on Inujima. Students will use their improved knowledge and skills to execute programs in their own communities. ソーシャル デザイン ソリューションの開発: 学生はソーシャル デザインの原則に関する知識を向上させ、持続可能性と犬島のコミュニティ参加に焦点を当てた現実世界の問題に対するソーシャル デザインソリューションを実装するスキルを開発します。学生は、向上した知識とスキルを活用して、自分のコミュニティで特定した問題に対処します。				知識・技能／思考・判断・表現力	
2	Foster Cross-Cultural Competence: students can adapt to an international context to understand, judge, and express their ideas effectively. Students will learn how to act in a diverse cultural setting. 異文化間の能力の育成: 学生は、国際的な文脈の中で自分の考えを理解し、判断し、効果的に表現する能力を構築します。学生は、多様な文化的環境の中でどのように行動するかを学びます。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Cultivate Empathy and Ethical Judgment: students will identify the challenges facing different communities including the aged residents of Inujima and international students. Students will improve their ability to make ethical judgments in their design activities. 共感力と倫理的判断力を養う: 生徒たちは、犬島の高齢住民や留学生など、さまざまなコミュニティが直面する課題について理解を深めます。学生はデザイン活動において倫理的な判断を下す能力を向上させます。				思考・判断・表現力	
4	Promote Initiative and Pro-activeness: students will take the initiative to analyze challenges in their own communities to find achievable goals, proactively developing solutions applying their experience from the context of Inujima. 自発性と積極性を促進する: 学生は達成可能な目標を見つけるために率先して課題を分析し、犬島のユニークな状況を使用して解決策を積極的に開発し、自分たちのコミュニティで革新的なプロジェクトを構築するよう自分たちを鼓舞します。				主体性	
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	Pre Inujima workshop preparation: 10% 事前学習での取り組み				1／3／4	
2	Inujima workshop participation: 50% 犬島ワークショップ参加				1／2／3／4	
3	Inujima workshop presentation: 40% 犬島ワークショップ発表会				1／2／3／4	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業			[English—日本語			

授業予定一覧 The possible course schedule is to be determined. Please note that the workshops take place at Inujima on Saturdays or Sundays from 08:30 to 17:00. Workshops dates may change due to poor weather. 1. Orientation sessions at Notre Dame Seishin University: What is Social Design? What is Inujima and how is it important? 2. Workshop 1: Introduction to Social Design on Inujima – An immersive session exploring the principles of Social Design within the context of Inujima's transformation. Includes a historical overview, museum visit, and field exploration. 3. Workshop 2: Cross-Cultural Communication and Collaboration – Focused on developing effective communication strategies in diverse groups. Includes practical activities in pairs or small groups, integrating students with local communities, especially the elderly residents. 4. Workshop 3: Environmental and Community-Based Project Design – Hands-on project planning and prototype development addressing local challenges. Emphasizes sustainability and community engagement, culminating in presentations to local stakeholders. 5. Presentation preparation: participants will work in mixed teams with international students to prepare a presentation on their experience at Inujima. 6. Presentation: participants will present to the wider community. Presentation content will cover their understanding of Social Design, knowledge of Inujima, experiences on Inujima, and the path forward. 可能なコーススケジュールは決定される予定です。 ワークショップは犬島で土曜または日曜の08:30～17:00に開催されます。 悪天候によりワークショップの日程が変更になる場合がございます。 1. ノートルダム清心大学オリエンテーション～ソーシャルデザインとは？ 犬島とは何ですか、そしてそれはどのように重要ですか？ 2. ワークショップ 1: 犬島のソーシャル デザイン入門 – 犬島の変革の文脈の中でソーシャル デザインの原則を探求する没入型セッション。 歴史の概要、博物館訪問、現地の探索が含まれます。 3. ワークショップ 2: 異文化間のコミュニケーションとコラボレーション – 多様なグループにおける効果的なコミュニケーション戦略の開発に焦点を当てます。 ペアまたは小グループでの実践的な活動が含まれており、学生を地域社会、特に高齢者と一体化させます。 4. ワークショップ 3: 環境およびコミュニティベースのプロジェクト設計 – 地域の課題に対処する実践的なプロジェクト計画とプロトタイプ開発。 持続可能性と地域社会への関与を強調し、地元の関係者へのプレゼンテーションで最高潮に達します。 5. プレゼンテーションの準備: 参加者は留学生と混合チームを組んで、犬島での体験についてのプレゼンテーションを準備します。 6. プレゼンテーション: 参加者は幅広いコミュニティに向けてプレゼンテーションを行います。 発表内容は、ソーシャルデザインへの理解、犬島の知識、犬島での経験、今後の進路などです。
試験等 Presentation
試験のフィードバックの方法 Feedback will be given to participants directly after each session. フィードバックは各セッションの直後に参加者に与えられます。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 水曜日: 13:00-14:30 713L Video conferencing 可能。
連絡先 c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項 Students are expected to attend all orientations and workshops. Those who do not participate in the orientation will not be able to participate in the workshops on Inujima. Access to Inujima is by ferry. Depending on the weather, the ferry service may be cancelled on short notice. Participants must be flexible. There are various costs for the transportation to Hodei port, the ferry, and the workshops. There is also a mandatory visit to the Seirenjo art museum. Every effort will be made to keep costs as low as possible but participants are expected to bear some portion of the cost. A description of the cost will be given in the first orientation. Since the program involves interactions with the aged local residents and enthusiastic foreign students, participants are expected to be excellent representatives of Notre Dame Seishin University. We hope that participants will be enthusiastic about their participation and open to learning. 学生はすべてのオリエンテーションとワークショップに参加することが求められます。 オリエンテーションに参加しない方は犬島でのワークショップには参加できません。 犬島へのアクセスはフェリーです。 天候によってはフェリーが急遽欠航となる場合がございます。 参加者は柔軟でなければなりません。 宝伝港までの交通費、フェリー、工房などの諸費用がかかります。 精錬所美術館への訪問も必須です。 費用はできる限り抑えるよう努めますが、費用の一部は参加者のご負担となります。 費用については第1回オリエンテーションで説明します。 地域の高齢者や熱心な留学生との交流を伴うプログラムであるため、ノートルダム清心大学を代表する優秀な人材が期待されます。 参加者が熱心に参加し、学習にオープンになることを期待しています。

自立力育成ゼミⅠ [b]				単位数	2単位
授業コード	12932	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	Christopher Creighton				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／複数				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
The Inujima Experience program is designed around the principles of Social Design, which involves creating solutions that address social issues with a focus on sustainability, community involvement, and enhancing quality of life. This course offers students a unique opportunity to explore these themes on Inujima, an island in the Seto nai kai that is part of Okayama city and that has undergone significant transformation from industrial decline to cultural revitalization. The island's context provides rich insights into community resilience, environmental sustainability, and the role of art in societal change. Students will engage in a mix of individual research, paired explorations, and group projects, including workshops, community engagement efforts, and environmental studies. A significant component involves interacting with Inujima's elderly residents, offering valuable perspectives on traditional ways of life and the impact of social change. In addition, students will have the chance to work with groups of exchange students which will offer significant, real-world chances to practise International Communication. This program not only aims to deepen students' understanding of Social Design in an international setting but also to reflect on their potential roles in society through direct community involvement. 犬島体験プログラムはソーシャル デザインの原則に基づいて設計されており、持続可能性、コミュニティへの参加、生活の質の向上に焦点を当てて社会問題に対処するソリューションを作成することが含まれます。このコースは、岡山市の一部であり、産業の衰退から文化の活性化へと大きな変化を遂げた瀬戸内海にある犬島で、これらのテーマを探究するユニークな機会を学生に提供します。この島の状況は、コミュニティの回復力、環境の持続可能性、社会変化における芸術の役割についての豊かな洞察を提供します。学生は、個人の調査、ペアでの調査、ワークショップ、地域社会への取り組み、環境調査などのグループプロジェクトを組み合わせて取り組みます。重要な要素には犬島の高齢者住民との交流が含まれており、伝統的な生活様式や社会変化の影響について貴重な視点を提供します。さらに、学生は交換留学生のグループと協力する機会があり、国際コミュニケーションを実践するための有意義な現実世界の機会を提供します。このプログラムは、国際的な環境において学生がソーシャルデザインについて理解を深めることを目的とするだけでなく、コミュニティへの直接的な関与を通じて、社会における学生の潜在的な役割について考えることも目的としています。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Develop Social Design Solutions: students will improve their knowledge of the principles of Social Design and develop their skills in implementing Social Design solutions for real-world problems focusing on sustainability and community engagement on Inujima. Students will use their improved knowledge and skills to execute programs in their own communities. ソーシャル デザイン ソリューションの開発: 学生はソーシャル デザインの原則に関する知識を向上させ、持続可能性と犬島のコミュニティ参加に焦点を当てた現実世界の問題に対するソーシャル デザインソリューションを実装するスキルを開発します。学生は、向上した知識とスキルを活用して、自分のコミュニティで特定した問題に対処します。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	Foster Cross-Cultural Competence: students can adapt to an international context to understand, judge, and express their ideas effectively. Students will learn how to act in a diverse cultural setting. 異文化間の能力の育成: 学生は、国際的な文脈の中で自分の考えを理解し、判断し、効果的に表現する能力を構築します。学生は、多様な文化的環境の中でどのように行動するかを学びます。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Cultivate Empathy and Ethical Judgment: students will identify the challenges facing different communities including the aged residents of Inujima and international students. Students will improve their ability to make ethical judgments in their design activities. 共感力と倫理的判断力を養う: 生徒たちは、犬島の高齢住民や留学生など、さまざまなコミュニティが直面する課題について理解を深めます。学生はデザイン活動において倫理的な判断を下す能力を向上させます。			思考・判断・表現力	
4	Promote Initiative and Pro-activeness: students will take the initiative to analyze challenges in their own communities to find achievable goals, proactively developing solutions applying their experience from the context of Inujima. 自発性と積極性を促進する: 学生は達成可能な目標を見つけるために率先して課題を分析し、犬島のユニークな状況を使用して解決策を積極的に開発し、自分たちのコミュニティで革新的なプロジェクトを構築するよう自分たちを鼓舞します。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Pre Inujima workshop preparation: 10% 事前学習での取り込み			1／3／4	
2	Inujima workshop participation: 50% 犬島ワークショップ参加			1／2／3／4	
3	Inujima workshop presentation: 40% 犬島ワークショップ発表会			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		English—日本語			

授業予定一覧 The possible course schedule is to be determined. Please note that the workshops take place at Inujima on Saturdays or Sundays from 08:30 to 17:00. Workshops dates may change due to poor weather. 1. Orientation sessions at Notre Dame Seishin University: What is Social Design? What is Inujima and how is it important? 2. Workshop 1: Introduction to Social Design on Inujima – An immersive session exploring the principles of Social Design within the context of Inujima’s transformation. Includes a historical overview, museum visit, and field exploration. 3. Workshop 2: Cross-Cultural Communication and Collaboration – Focused on developing effective communication strategies in diverse groups. Includes practical activities in pairs or small groups, integrating students with local communities, especially the elderly residents. 4. Workshop 3: Environmental and Community-Based Project Design – Hands-on project planning and prototype development addressing local challenges. Emphasizes sustainability and community engagement, culminating in presentations to local stakeholders. 5. Presentation preparation: participants will work in mixed teams with international students to prepare a presentation on their experience at Inujima. 6. Presentation: participants will present to the wider community. Presentation content will cover their understanding of Social Design, knowledge of Inujima, experiences on Inujima, and the path forward. 可能なコーススケジュールは決定される予定です。 ワークショップは犬島で土曜または日曜の08:30～17:00に開催されます。 悪天候によりワークショップの日程が変更になる場合がございます。 1. ノートルダム清心大学オリエンテーション～ソーシャルデザインとは？ 犬島とは何ですか、そしてそれはどのように重要ですか？ 2. ワークショップ 1: 犬島のソーシャル デザイン入門 – 犬島の変革の文脈の中でソーシャル デザインの原則を探求する没入型セッション。 歴史の概要、博物館訪問、現地の探索が含まれます。 3. ワークショップ 2: 異文化間のコミュニケーションとコラボレーション – 多様なグループにおける効果的なコミュニケーション戦略の開発に焦点を当てます。 ペアまたは小グループでの実践的な活動が含まれており、学生を地域社会、特に高齢者と一体化させます。 4. ワークショップ 3: 環境およびコミュニティベースのプロジェクト設計 – 地域の課題に対処する実践的なプロジェクト計画とプロトタイプ開発。 持続可能性と地域社会への関与を強調し、地元の関係者へのプレゼンテーションで最高潮に達します。 5. プレゼンテーションの準備: 参加者は留学生と混合チームを組んで、犬島での体験についてのプレゼンテーションを準備します。 6. プレゼンテーション: 参加者は幅広いコミュニティに向けてプレゼンテーションを行います。 発表内容は、ソーシャルデザインへの理解、犬島の知識、犬島での経験、今後の進路などです。
試験等 Presentation
試験のフィードバックの方法 Feedback will be given to participants directly after each session. フィードバックは各セッションの直後に参加者に与えられます。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 水曜日: 13:00-14:30 713L Video conferencing 可能。
連絡先 c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項 Students are expected to attend all orientations and workshops. Those who do not participate in the orientation will not be able to participate in the workshops on Inujima. Access to Inujima is by ferry. Depending on the weather, the ferry service may be cancelled on short notice. Participants must be flexible. There are various costs for the transportation to Hoden port, the ferry, and the workshops. There is also a mandatory visit to the Seirenjo art museum. Every effort will be made to keep costs as low as possible but participants are expected to bear some portion of the cost. A description of the cost will be given in the first orientation. Since the program involves interactions with the aged local residents and enthusiastic foreign students, participants are expected to be excellent representatives of Notre Dame Seishin Univeristy. We hope that participants will be enthusiastic about their participation and open to learning. 学生はすべてのオリエンテーションとワークショップに参加することが求められます。 オリエンテーションに参加しない方は犬島でのワークショップには参加できません。 犬島へのアクセスはフェリーです。 天候によってはフェリーが急遽欠航となる場合がございます。 参加者は柔軟でなければなりません。 宝伝港までの交通費、フェリー、工房などの諸費用がかかります。 精錬所美術館への訪問も必須です。 費用はできる限り抑えるよう努めますが、費用の一部は参加者のご負担となります。 費用については第1回オリエンテーションで説明します。 地域の高齢者や熱心な留学生との交流を伴うプログラムであるため、ノートルダム清心大学を代表する優秀な人材が期待されます。 参加者が熱心に参加し、学習にオープンになることを期待しています。

自立力育成ゼミII				単位数	2単位
授業コード	12936	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期
担当者氏名	Christopher Creighton				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／複数				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
The Inujima Experience program focuses on Social Design which aims to solve social issues with sustainability, community engagement, and improving the quality of life. Students will learn about sustainability, community engagement, and improving the quality of life on Inujima, an island in the Seto Inland Sea which is part of Okayama city. Inujima has changed from industrial and population decline to cultural renewal. The program is based on daylong workshops at the Inujima Life Garden, a project managed by the Benesse Art Site Naoshima. Students will do individual research, pair, and group projects. Students will interact with the island's elderly residents to learn about social change. Students will also collaborate with international exchange students to practice International Communication.					
犬島体験プログラムは、持続可能性、地域社会との関わり、生活の質の向上によって社会問題を解決することを目的としたソーシャルデザインに焦点を当てています。 学生は、岡山市の一部である瀬戸内海の島、犬島での持続可能性、地域社会との関わり、生活の質の向上について学びます。犬島は産業の衰退と人口の減少から、文化の再生へと変わりました。 このプログラムは、ベネッセアートサイト直島が運営するプロジェクト「犬島 くらしの植物園」での1日のワークショップをベースにしています。 学生は個人研究、ペア、グループプロジェクトを行います。 学生たちは島の高齢者たちと交流し、社会の変化について学びます。 また、留学生と協力して国際コミュニケーションも実践します。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Develop Social Design Solutions: students will improve their knowledge of the principles of Social Design and develop their skills in implementing Social Design solutions for real-world problems focusing on sustainability and community engagement on Inujima. Students will use their improved knowledge and skills to execute programs in their own communities. ソーシャル デザイン ソリューションの開発: 学生はソーシャル デザインの理念に関する理解を深め、持続可能性と犬島のコミュニティ参加に焦点を当てた実社会の問題に対するソーシャル デザイン ソリューションを実装するスキルを学びます。 学生は、得られた知識とスキルを活用して、自分のコミュニティにおける問題解決にも取り組めるようになります。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	Foster Cross-Cultural Competence: students can adapt to an international context to understand, judge, and express their ideas effectively. Students will learn how to act in a diverse cultural setting. 異文化対応力の育成: 学生は、国際的な環境の中で自分の考えを理解し、判断し、効果的に表現する能力を身に付けます。 学生は、多様な文化的環境の中でどのように行動すべきかを学びます。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Cultivate Empathy and Ethical Judgment: students will identify the challenges facing different communities including the aged residents of Inujima and international students. Students will improve their ability to make ethical judgments in their design activities. 共感力と倫理的判断力を養う: 学生は、犬島の高齢住民や留学生など、さまざまなコミュニティが直面する課題について理解を深めます。 学生はデザイン活動において倫理的な判断を下す能力を向上させます。			思考・判断・表現力	
4	Promote Initiative and Pro-activeness: students will take the initiative to analyze challenges in their own communities to find achievable goals, proactively developing solutions applying their experience from the context of Inujima. 自発性と積極性を促進する: 学生は、犬島での経験を生かして、主体的に解決策を考え、達成可能な目標を見つけるために、自分たちの地域の課題を分析できるようになります。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Pre Inujima workshop preparation: 10% 事前学習での取り組み			1／3／4	
2	Inujima workshop participation: 50% 犬島ワークショップ参加			1／2／3／4	
3	Inujima workshop presentation: 40% 犬島ワークショップ発表会			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		English－日本語			

授業予定一覧 The course schedule is to be determined. Please note that the workshops take place at the Inujima Life Garden on Saturdays or Sundays from 08:30 to 17:00. Workshops dates may change due to poor weather. 1. Orientation sessions at Notre Dame Seishin University: What is Social Design? What is Inujima and how is it important? 2. Workshop 1: Introduction to Social Design on Inujima – learning about the principles of Social Design within the context of Inujima’s transformation. Includes a historical overview, museum visit, and field exploration. 3. Workshop 2: Cross-Cultural Communication and Collaboration – using effective communication strategies in diverse groups. Includes practical activities in pairs or small groups, integrating students with local communities, especially the elderly residents and international exchange students. 4. Workshop 3: Environmental and Community-Based Project Design – identifying local challenges and making plans to meet those challenges. The plans use sustainability and community engagement. 5. Presentation preparation: participants will work in mixed teams with international students to prepare a presentation on their experience at Inujima. 6. Presentation: participants will present to the wider community. Presentation content will cover their understanding of Social Design, knowledge of Inujima, experiences on Inujima, and the path forward. 講座スケジュールの詳細は確定し次第案内します。 ワークショップは犬島くらしの植物園で土曜または日曜の08:30～17:00に開催されます。 悪天候によりワークショップの日程が変更になる場合があります。 1. ノートルダム清心大学でのオリエンテーション～ソーシャルデザインとは？ 犬島の紹介とその重要性 2. ワークショップ 1: 犬島のソーシャルデザイン入門 – 犬島の変革の文脈の中でのソーシャルデザインの理念について学びます。 歴史の概要、博物館訪問、現地調査が含まれます。 3. ワークショップ 2: 異文化間のコミュニケーションとコラボレーション – 多様なグループで効果的なコミュニケーションを図ります。 ペアまたは小グループでの実践的な活動が含まれており、学生は地域社会、特に高齢者や留学生と密に交流します。 4. ワークショップ 3: 環境およびコミュニティベースのプロジェクト設計 – 地域の課題を特定し、それらの課題に対処する計画を立てます。 この計画では持続可能性とコミュニティの関わりを活用します。 5. プレゼンテーションの準備：参加者は留学生と合同チームを組んで、犬島での体験についてのプレゼンテーションを準備します。 6. プレゼンテーション：参加者は幅広いコミュニティに向けてプレゼンテーションを行います。 発表内容は、ソーシャルデザインへの理解、犬島の知識、犬島での経験、これからのあり方などです。
試験等 Presentation
試験のフィードバックの方法 Feedback will be given to participants directly after each session. フィードバックは各セッションの直後に参加者に与えられます。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 水曜日：13:00-14:30 713L Video conferencing 可能。
連絡先 c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項

A maximum of 8 students can join this project.

Access to Inujima is by ferry. Depending on the weather, the ferry service may be cancelled on short notice. Participants must be flexible.

There are costs such as transportation to Hoden port, the ferry, and the workshops. There is also a mandatory visit to the Seirenjo art museum. Every effort will be made to keep costs as low as possible but participants are expected to pay some portion of the cost. A description of the cost will be given in the first orientation.

The program is at the Inujima Life Garden which is outside. Students need to dress to work outside in a garden. Every effort will be made for safety; however, there is a possibility of accidents and insect bites.

Students on the program will interact with the aged local residents. Please understand that sometimes the local residents are available and sometimes they are not. Students on the program will also interact with foreign exchange students. The foreign students are volunteers and sometimes cannot attend workshops. Also, the foreign students have different levels of Japanese ability; at times the language will be Japanese but at times it will also be English. NDSU students will have the chance to use English communicatively.

授業には最大 8 人の学生が参加できます。

犬島へのアクセスは宝伝港からのフェリーです。天候によってはフェリーが急遽欠航となる場合があります。

宝伝港までの交通費、フェリー、ワークショップなどの費用がかかります。精錬所美術館への訪問も必須です。費用をできる限り低く抑えるようにしますが、費用の一部は参加者負担となります。費用については第 1 回オリエンテーションで説明します。

プログラムは屋外にある犬島くらしの植物園で行います。学生は屋外の庭で作業できる服装で参加してください。安全対策は取られますが、ケガや虫刺されに注意してください。

地域の高齢者と交流します。近隣住民が対応できる場合と対応できない場合があることをご了承ください。学生は外国人留学生との交流も行います。留学生はボランティアのため、ワークショップに参加できない場合もあります。また、留学生の日本語能力には個人差があります。言語は日本語と英語を使用する場合があります。NDSU の学生にとっては、英語を使ってコミュニケーションの機会があります。

自立力育成ゼミIII				単位数	2単位
授業コード	12940	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
この授業のテーマは、「英語論文の読解と要約」である。英語で書かれた論文を正確に理解し、その内容を日本語で、批評的に要約できる能力を育むことを目指す。英語そのものの学習を目的とするのではなく、英語を情報収集のツール（道具）として使いこなす技術をみがくことを目的としている。このような技能を、実践的な練習を繰り返すことで身につけていく。大学院進学や留学の準備としての役割も果たす。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	正確に論文を読むことができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	読み取った論文の内容を日本語で批評的に要約することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	論文読解に必要な語彙力を増強する。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート 50%				1／2／3
2	期末レポート 50%				1／2／3
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシOn 2 論文の構成と表現 読解の方法 ① 3 論文の構成と表現 読解の方法 ② 4 実践練習 ① 心理学 5 実践練習 ② 社会学 6 実践練習 ③ 児童福祉 7 実践練習 ④ 国際関係 8 学生による読解・要約のデモンストレーシOn ① 9 学生による読解・要約のデモンストレーシOn ② 10 実践練習 ⑤ 人間生活 11 実践練習 ⑥ 女性学 12 実践練習 ⑦ 文化比較 13 実践練習 ⑧ 経済学 14 学生による読解・要約のデモンストレーシOn ① 15 学生による読解・要約のデモンストレーシOn ②					
注 実践練習で扱う論文の分野は暫定的である。					

試験等
期末レポートを期末試験期間中に提出する。
試験のフィードバックの方法
レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・予習として課題に取り組む。次回の教材となる論文を読んでおく。語彙力テストに備える。（60～90分） ・復習として、論文の要約を行う。（60分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要に応じて指示する。また、授業中に印刷物を配布する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
1 この授業で扱う論文は、主として社会科学の分野の学術的な論文である。文学作品を分析する論文や、随筆などの文学的文章は対象としない。 アメリカなど英語文化圏の大学の「教養課程」で教科書や教材として使われるレベルの学術的な論文を扱う。
2 「概要」にもあるように、この授業では、英語そのものの学習を目的とするのではなく、英語を学問研究のために活用する技術の習得を目的としている。同時に、内容を把握し、自分のことばで説明できるような日本語の表現力も強化していく。
3 この授業の定員は10名とする。

自立力育成ゼミⅣ				【単位数	2単位
授業コード	12946	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	小林 謙一				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、「食えることは生きること」をキーワードとして、「食」を生物学的、社会的、心理的、文化的、歴史的、現代社会的な側面から、理解と思考を深める。また、「食」の問題と「情報」の問題の類似点を探り、その「解決点」を模索する。これらの考え方に基づき、自ら課題を設定し、その課題に対して、情報を適切に収集・選択・整理し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行う。その中で、集団の中で自らの意見を適切に表現できるようにする。					
アクティブラーニングの実施内容		ディベート			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	・「食」について、様々な観点から思考ができるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	・「食」やそれを取り巻く「社会」に対して、適切な「問題意識」をもち、それに基づく「課題」設定能力を身につけることができる。			思考・判断・表現力／主体性	
3	・「課題」に取り組むための情報を適切に収集・選択したうえで、その情報を批判的に読み取る能力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	・これらの「課題」をグループ内で発表し、議論・討論することで、集団の中で自らの意見を表現できるようになるとともに、多くの意見を集約し整理できる能力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 10%			1／2／3／4	
2	課題 20%			1／2／3／4	
3	レポート 20%			1／2／3／4	
4	プレゼンテーション 50%			1／2／3／4	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. オリエンテーション・・・本ゼミについての内容を理解できるようにする 2. 「食」とはなにか？・・・「食」の本質について説明できるようにする 3. 「食」を生物学的に考える・・・「食」について生物学的な側面から説明できるようにする 4. 「食」を栄養学的に考える・・・「食」について栄養学的な側面から説明できるようにする 5. 「食」を心理的に考える・・・「食」について心理学的な側面から説明できるようにする 6. 「食」を歴史的に考える・・・「食」について歴史的な側面から説明できるようにする 7. 「食」を文化的に考える・・・「食」について文化的な側面から説明できるようにする 8. 総合討論（1）「食える」ことの意味について・・・「食える」ことの意味について多面的に議論できるようになる 9. 現代の「食」とメタボロームシンドローム・・・現代の「食」の問題をメタボロームシンドロームという側面から説明できるようにする 10. 現代の「食」と「情報」・・・現代の「食」と「情報」との密接な関係性について説明できるようにする 11. 「食」とメタボと「情報」のメタボ・・・「食」と「情報」の概念的共通性について説明できるようにする 12. 現代の「食」と「疲労」・・・現代の「食」と「疲労」との密接な関係性について説明できるようにする 13. 現代の「食」と「こころ」・・・現代の「食」と「こころ」との密接な関係性について説明できるようにする 14. 総合討論・・・「食」の今日的な課題と未来への提言に向けた議論ができるようになる 15. まとめ・・・このゼミにおける内容を総括して、自身の振り返りができるようにする					

自立力育成ゼミⅤ [a]				[単位数]		[2単位]		
授業コード		12951	科目ナンバリング		160Z0-1234-o2	開講年度学期		2024年度第1期
担当者氏名		Thomas Fast						
時間割備考								
授業形態（主）		2 演習						
授業形態（副）		1 講義						
担当形態		単独						
研究分野（大学院）								
本授業の概要								
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.								
アクティブラーニングの実施内容		発見学習						
到達目標						対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
5	Students can demonstrate research and academic writing skills					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
成績評価の基準						対応する到達目標の番号		
1	Country/Issue Presentation 20%					1／2／3		
2	Position Paper 30%					1／2／3／5		
3	Formal Speech 20%					1／2／3／4／5		
4	Participation 30%					3／4		
5								
実務経験のある教員による授業科目				No				
実務経験の授業への活用方法								
日本語以外の言語による授業				English				
授業予定一覧								
Week 1: Orientation Week 2: The United Nations Week 3: Researching the assigned topic Week 4: Researching the assigned topic Week 5: Country/Issue Presentations Week 6: Caucusing and Position Paper Writing Week 7: Position Paper Writing I Week 8: Position Paper Writing II Week 9: Resolutions and Amendments I Week 10: Resolutions and Amendments II Week 11: Debate and Negotiation Skills I Week 12: Debate and Negotiation Skills II Week 13: Formal and Informal Debate I Week 14: Formal and Informal Debate II Week 15: Informal Debate and Caucusing Strategies								

試験等
Week 16: Final Position Papers due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
This class is recommended only for students with the equivalent of TOEIC 600 or higher. For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions in English. In addition, students will be required to attend a Model United Nations Conference.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
No textbook
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

自立力育成ゼミⅤ [b]				[単位数]		[2単位]		
授業コード		12952	科目ナンバリング		160Z0-1234-o2	開講年度学期		2024年度第2期
担当者氏名		Thomas Fast						
時間割備考								
授業形態（主）		2 演習						
授業形態（副）		1 講義						
担当形態		単独						
研究分野（大学院）								
本授業の概要								
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.								
アクティブラーニングの実施内容				発見学習				
到達目標						対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
5	Students can demonstrate research and academic writing skills					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
成績評価の基準						対応する到達目標の番号		
1	Country/Issue Presentation 20%					1／2／3		
2	Position Paper 30%					1／2／3／5		
3	Formal Speech 20%					1／2／3／4／5		
4	Participation 30%					3／4		
5								
実務経験のある教員による授業科目				No				
実務経験の授業への活用方法								
日本語以外の言語による授業				English				
授業予定一覧								
Week 1: Orientation Week 2: The United Nations Week 3: Researching the assigned topic Week 4: Researching the assigned topic Week 5: Country/Issue Presentations Week 6: Caucusing and Position Paper Writing Week 7: Position Paper Writing I Week 8: Position Paper Writing II Week 9: Resolutions and Amendments I Week 10: Resolutions and Amendments II Week 11: Debate and Negotiation Skills I Week 12: Debate and Negotiation Skills II Week 13: Formal and Informal Debate I Week 14: Formal and Informal Debate II Week 15: Informal Debate and Caucusing Strategies								

試験等
Week 16: Final Position Papers due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions in English. This class is recommended only for students with the equivalent of TOEIC 600 or higher.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
No textbook
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

自立力育成ゼミⅥ				【単位数】		2単位		
授業コード		12955	科目ナンバリング		160Z0-1234-o2	開講年度学期		2024年度第2期
担当者氏名		高橋 昌子、村中 李衣、Bae Junsob						
時間割備考								
授業形態（主）		2 演習						
授業形態（副）		1 講義						
担当形態		単独						
研究分野（大学院）								
本授業の概要								
近くて遠い国と言われる韓国の「近さ」と「遠さ」を「わたし」という窓を通して理解していく。韓国大学生との異文化交流を念頭に、毎回簡単な読む・聴く・話すトレーニングを取り入れながら、自分なりの問題意識を高めていく。現地学生と交流後は、自分の目と肌で感じた韓国を伝え合い、今後あるべき日韓の関係づくりの提案を行う。								
アクティブラーニングの実施内容				体験学習				
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		
1	1、マスメディアやインターネットによって流される情報を単純に受け入れるのではなく、事実に基づいて正しく判断できる。					思考・判断・表現力		
2	2、自分独自の視点をもって日本以外の国の人々との関係づくりの手掛かりを持つ。					主体性		
3	3、現地学生との交流の手掛かりとなる簡単な韓国語会話ができるようになる					知識・技能		
4								
5								
成績評価の基準						対応する到達目標の番号		
1	期末レポート：60%					1／2		
2	ディスカッションへの参加度：40%					2／3		
3								
4								
5								
実務経験のある教員による授業科目				実務あり				
実務経験の授業への活用方法								
BaeJunsobは、内閣府主催の国家間青年親善交流事業における同行通訳及び招聘通訳の経験を活かし学生の初歩韓国語会話能力の習得（到達目標3）の達成を援助する。また、日韓連絡会議の実行委員として日韓文化交流事業に携わっている経験を活かし、学生がそれぞれの課題を設定し学生に韓国の理解を進めるための手がかりを提供できる。 村中は児童文学作家として、韓国釜山外国語大学の学生と交流しながら、自身の作品の韓国語翻訳作品の解説などを行うことができる。								
日本語以外の言語による授業								
授業予定一覧								
1 オリエンテーション・日本における韓国イメージの変遷 2 ハングル文字の読み方・書き方 1、韓国の歴史と社会 1 3 ハングル文字の読み方・書き方 2、韓国の歴史と社会 2 4 韓国語会話 1・日韓関係 1 5 韓国語会話 2・日韓関係 2 6 韓国語会話 3・韓流と韓国 1 7 韓国語会話 4・韓流と韓国 2 8 韓国語会話 5・韓国の文化 1 9 韓国語会話 6・韓国の文化 2 10 韓国語会話 7・韓国の教育 1 11 韓国語会話 8 ・ 韓国の教育 2 12 韓国語会話 9 ・ 日本の中の韓国・韓国のなかの日本 1（オンラインで韓国大学生との交流） 13 韓国語会話 10・ 日本の中の韓国・韓国のなかの日本 2（オンラインで韓国大学生との交流） 14 韓国語会話 11・ 日韓共通の課題とその解決策の模索 15 学びの振り返り：わたしの中の「世界」はどう変わったか？								

試験等
期末レポートに関しては15回目の授業の中で案内する。
試験のフィードバックの方法
レポートにコメントし返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として授業中に配布した練習プリントおよび課題を次回授業までにすませておく。（1時間） 事後学習として模範解答に従って、プリントの間違い部分のおさらいをする。（1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 適宜、授業中に指示する。 <参考書等> 必要に応じて、印刷物を配布する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中） m-takahashi@m.ndsu.ac.jp（高橋）
留意事項
本授業は、はじめて韓国語を学習する学習者を対象とするものである。 他大学との交流を考慮し、定員を16名とする。 「N先着」により受講可能者を決定する。

自立力育成ゼミⅦI				【単位数		2単位	
授業コード		12961		科目ナンバリング		160Z0-1234-o2	
				開講年度学期		2024年度第1期	
担当者氏名		岡田 紅理子					
時間割備考							
授業形態（主）		1 講義					
授業形態（副）		2 演習					
担当形態		単独					
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
全国には13の国立ハンセン病療養所があり、岡山県は全国で唯一、2つの療養所をもつ自治体である。岡山県にある2つの療養所のうちのひとつである長島愛生園は、日本で最初に設置された国立療養所である。 本科目では、90年にわたって続いたハンセン病絶対隔離政策の歴史をたどりながら、今日もなお続くハンセン病回復者（ハンセン病の病歴者・元患者、療養所の入所者・元入所者）とその家族が経験してきたさまざまな「人生被害」の実験を学ぶ。そして、被害に対するかれらと支援者らによる闘いへの想いをみつめ、日本社会のあり方・仕組みを問うていく。また、近年頻繁に聞かれるようになった「人権」や人間の「尊厳」とはなんであるのかを考察していく。							
アクティブラーニングの実施内容				発見学習			
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1		回復者とその家族が経験した偏見差別の実態を論理的かつ具体的に説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2		ハンセン病問題が疾病の問題ではなく、「病い」の問題であることを理解し、自分との関連性を見出せる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3		回復者とその家族を「かわいそうな」「助けてあげるべき」存在としてではなく、抑圧や偏見差別のない社会を共に目指す存在として理解できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4							
5							
成績評価の基準						対応する到達目標の番号	
1		授業の取り組み態度 20%				1／2／3	
2		リアクションペーパー 40%				1／2／3	
3		レポート 40%				1／2／3	
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目							
実務経験の授業への活用方法							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
1. イントロダクション 2. ハンセン病という疾病と患者たち 3. 「国辱」論と強制隔離 4. 海を越えた日本のハンセン病政策 5. 立ち上がった入所者たち 6. ハンセン病国賠訴訟原告たちの訴え 7. 「人間回復」を目指して 8. 旧植民地からの訴え 9. 医師・僧侶 小笠原登からの問いかけ 10. 立ち上がった家族たち 11. ハンセン病家族訴訟原告たちの訴え 12. ハンセン病問題とわたし：医療従事者からの問いかけ（学外講師） 13. ハンセン病問題とわたし：教育者からの問いかけ（学外講師） 14. ハンセン病問題とわたし：法律家からの問いかけ（学外講師） 15. ハンセン病問題とわたし：宗教者からの問いかけ（学外講師）							

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義・レジュメで紹介された書籍を読む（60分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、自分が考えたことをメモに残す（30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 <参考書> ・黒坂愛衣『ハンセン病家族たちの物語』世織書房、2019 ・山陽新聞社編『語り継ぐハンセン病：瀬戸内3園から』山陽新聞社、2015 ・田中等『ハンセン病の社会史：日本「近代」の解体のために』彩流社、2017 ・ハンセン病市民学会教育部会編『ハンセン病問題から学び、伝える：差別のない社会をつくる人権学習』清水書院、2022 * その他は授業時またレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者を上限30人とする。 ・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・現代社会におけるマイノリティや偏見差別等の人権問題、多文化共生に関心がある学生の履修を歓迎する。 ・高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではないため、受動的に授業に臨むのではなく、主体的に調べ、考え、言語化する姿勢が求められる。 ・ゲストスピーカーのご都合や履修者の理解度・関心度の状況などにより、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・実際に長島愛生園もしくは邑久光明園への見学を企画したい。見学は土曜日に実施される可能性が高く、公共交通機関を利用した現地までの往復運賃を自己負担とする。また、参加者と非参加者では、課題について異なる対応をとる。 ・授業は、視聴覚教材（ドキュメンタリー、講演会映像等）を多用しながら進められる。

自立力育成ゼミVIII				単位数	2単位
授業コード	12971	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
社会の中で生きていくうえで、人は、自分の思いを他者に伝え、他者の思いを理解するというコミュニケーションを必要とします。より良いコミュニケーションと人間関係のためには、自分が何を感じ、何を思い、何を伝えたいのか、また相手は何を感じ、何を思い、何を伝えようとしているのか、自他の心について理解することが求められます。 「大切なことは、目に見えないんだよ」と星の王子さまは言いました。心で探さないと見えないもの、心でしか見えないもの、心とは何かについて理解を深めるため、現代社会の心に関する資料や情報、文献を各自適切に選択し、話題提供を行います。それに基づいて少人数のグループで自由に討論することを通して、各自が感じ、考えることを適切に表現できるように、そして他者の意見に耳を傾け、相手の意見を聴き、判断し、さらに自分の考えを深める取り組みを重ねていきます。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	心の働きに対する基礎的な理解力を身につけ、多面的に説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	自他の心への関心を具体的に持ち、心を理解するための心的構えを身につける。			思考・判断・表現力／主体性	
3	現代社会を生きる「心」に関して、問題意識をもつことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	自分の意見を適切に表現、主張し、集団において他者と討論できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への主体的な取り組み・リアクションシート 30%			1／2／3／4	
2	課題（発表）中間レポート（800字程度 3回） 30%			1／2／3／4	
3	期末課題レポート 40 %			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わっている経験より、現代社会における心に関する問題について臨牀的にとりあげ、多面的、多角的、多層的な理解をすすめる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. オリエンテーション・「心」とは何か 2. 無意識の発見と心の成り立ち 3. 心の発達と性格・パーソナリティについて 4. セクシャリティ (sexuality) について 5. ディスカッション① 6. 夢の働き 7. 不安、恐怖とは 8. 感情（怒り）のコントロール 9. 日常生活と心の健康（あるいは特別講師による講義を予定） 10. ディスカッション② 11. 集団と対人関係における心理 12. 人とかかわり方 13. 自分の気持ちを伝える：アサーション 14. ディスカッション③ 15. 総合討論・まとめ					

試験等
課題レポート
試験のフィードバックの方法
授業中に振り返りを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習） 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的、積極的に関心を持ち、各テーマに関する話題提供ができるように、文献にもあたるなどの準備をして授業に臨むようにしてください。（各1時間 総計15時間以上） （復習） 授業で体験したことは、各自、主体的に言語化するように努め、問題意識をもってさらに文献などを読み、理解を深めること。（各1時間 総計15時間以上）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書等>
適宜授業中に紹介し、プリント等を授業中に配布する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、金4限目。そのほかの希望については、教員に申し出て相談すること。
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1. 主体的に授業に参加し、演習、討論では、積極的に自分の意見を述べることを求める。 2. manaba folio を利用する予定である。各自リマインダー登録をしておくこと。 3. レポートは、課題レポートを含めて4回（800字程度3回、2000字程度1回）提出予定。 4. 毎回の授業では事前学習をもとにグループディスカッションを行うので、必ず事前学習をして授業に臨むこと。 5. 外部講師による特別講義「自分たちに求められる被害者支援とは～誰かの笑顔に繋がる私の勇気～」を今年度も企画予定である。その際にはシラバスの順が変更になる可能性あり。

ボランティア実践III					単位数	2単位
授業コード	18100	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期	
担当者氏名	濱崎 絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	3 実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
ボランティア活動について、概念、社会的意義、活動上の注意など、基本的な事柄を学びます。福祉、教育、環境を中心としたボランティア活動の実践者やコーディネーターから多様なボランティア活動について学びます。そのうえで、自らが関心のあるボランティア活動に参加します。実践を通じてボランティア活動の意義を体験的に学び実践力を身につけます。体験からの学びを他のメンバーと共有するとともに、地域社会の課題に対する理解を深め視野を広げます。						
アクティブラーニングの実施内容		体験学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	ボランティア活動の概念、社会的意義、活動上の注意を説明することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力	
2	地域社会において主体的にボランティア活動を実践することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	体験からの学びを他のメンバーと共有し、地域社会とボランティア活動について多角的に考察して記述することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4						
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み 20%				1／3	
2	ボランティア活動への積極的参加と協働 50%				1／2／3	
3	期末レポート 30%				1／2／3	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1 オリエンテーション、ボランティア基礎講座 2 ボランティア活動の紹介（特別講義） 3 ボランティア活動の紹介（特別講義） 4～6 ボランティア活動の選択と計画 ※ボランティア活動の紹介等をふまえて5日間程度の活動を計画する ※独自のボランティア活動に参加しても良いが、その場合は必ず担当教員に相談すること 7～13 ボランティア活動 14 実践の振り返りと学びの共有 15 まとめ						

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manaba folioからレポートをふまえた全体統括を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）ボランティア活動への準備学習（1時間程度） （復習）ボランティア活動記録の作成（1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書等〉 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

ボランティア実践B				【単位数		2単位		
授業コード		18102	科目ナンバリング		160Z0-1234-o2	開講年度学期		2024年度第2期
担当者氏名		濱崎 絵梨						
時間割備考								
授業形態（主）		1 講義						
授業形態（副）		3 実験・実習・実技						
担当形態		単独						
研究分野（大学院）								
本授業の概要								
ボランティア活動について、概念、社会的意義、活動上の注意など、基本的な事柄を学びます。福祉、教育、環境を中心としたボランティア活動の実践者やコーディネーターから多様なボランティア活動について学びます。そのうえで、自らが関心のあるボランティア活動に参加します。実践を通じてボランティア活動の意義を体験的に学び実践力を身につけます。体験からの学びを他のメンバーと共有するとともに、地域社会の課題に対する理解を深め視野を広げます。								
アクティブラーニングの実施内容				体験学習				
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	ボランティア活動の概念、社会的意義、活動上の注意を説明することができる。					知識・技能／思考・判断・表現力		
2	地域社会において主体的にボランティア活動を実践することができる。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	体験からの学びを他のメンバーと共有し、地域社会とボランティア活動について多角的に考察して記述することができる。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4								
5								
成績評価の基準						対応する到達目標の番号		
1	授業への取り組み 20%					1／3		
2	ボランティア活動への積極的参加と協働 50%					1／2／3		
3	期末レポート 30%					1／2／3		
4								
5								
実務経験のある教員による授業科目								
実務経験の授業への活用方法								
日本語以外の言語による授業								
授業予定一覧								
1 オリエンテーション、ボランティア基礎講座 2 ボランティア活動の紹介（特別講義） 3 ボランティア活動の紹介（特別講義） 4～6 ボランティア活動の選択と計画 ※ボランティア活動の紹介等をふまえて5日間程度の活動を計画する ※独自のボランティア活動に参加しても良いが、その場合は必ず担当教員に相談すること 7～13 ボランティア活動 14 実践の振り返りと学びの共有 15 まとめ								

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manaba folioからレポートをふまえた全体統括を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）ボランティア活動への準備学習（1時間程度） （復習）ボランティア活動記録の作成（1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書等〉 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

「いのち」と「くらし」の倫理				単位数	2単位
授業コード	18500	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
私たちの「いのち/くらし」の成り立ちと、そこに横たわる諸問題を「ケア」の視点から見つめ、考える。医療や福祉、教育などの「専門的かわり」においてのみならず、私たちの日常的な生活の中にある「ケア」の可能性について考えながら、参加者一人一人が自分自身それを自分自身の生き方に取り入れていく道を探求する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	現代社会の諸問題を自己の生と関係づけて理解し、その解決法を具体的に提示できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	他者の言葉に耳を傾けつつ、対話を通じて自分の主張を発見し、意見として表現することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	リアクションペーパー 30%			1／2	
2	グループワークへの参加 30%			1／2	
3	期末レポート 40%			1／2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 導入 2. ケアという視点 3. 「LIFE=いのちとくらし」の問題圏 4. 「ケアの地図」をつくる(グループディスカッション) 5. 発表1 6. 「育つ」：こどもを考える 7. 「あそび」を考える(グループディスカッション) 8. 発表2 9. 「働く」：おとなと生活者の視点 10. 「社会のかたち」を考える(グループディスカッション) 11. 発表3 12. 「生きる」：いのちを見つめる 13. 「リビングウィル」を考える(グループディスカッション) 14. 発表4 15. まとめ:他者と共に歩む生へ					

試験等
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
(予習) 予定されたテーマについて、ネット上のニュースや文献などを調べ、自分の関心や疑問点などをまとめておく。(30分) (復習) 授業で課されたリアクションに記入した内容を振り返り、説得力が十分あるかどうかさらに考察を深める。(30分)
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書〉 『ケアの倫理 フェミニズムの政治思想』岡野八代，岩波新書，2024年 その他、随時講義内にて紹介する。必要に応じてプリント資料を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問や相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・定員100名。 ・希望者多数の場合は、初回の授業時までに抽選を行う。結果はmanabaにて通知する。 ・本科目は講義だけではなく、テーマについての参加者からのフィードバックを交えて進められる予定である。またグループワークやディスカッションも取り入れる。詳しいプログラムは受講者数に応じ、相談して決定する。 ・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。

ディスカッションから社会を考える				単位数	2単位
授業コード	18600	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第 1 期
担当者氏名	濱西 栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
【サブタイトル：国連SDGs入門―「行動の10年」のためのサステナビリティの学び】 本科目は、国連大学SDG大学連携プラットフォーム（https://ias.unu.edu/jp/sdg-up）が開発した1・2年生向けの一般教養科目である。SDGs実践に先駆的に取り組む全国の大学が協力して授業を展開し、サステナビリティに関する広い知識を身につけるとともに、SDGsの社会的、経済的、環境的、ガバナンス的側面の有機的関連性を見る視座や自主的かつ協調的に考える力を養う。SDGsの歴史的背景と日本の現状を理解したうえで、SDGsがもとめる変化と行動について事例から学びつつ議論することを通して、サステナビリティについて自分事として捉えることができる姿勢を涵養する。 ※本科目は、本学が参加する「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」（SDG-UP、32大学参加）のSDGsカリキュラム分科会（幹事は清心・ICU・関学）において構築された教養科目です。1・2年生の人向けにつくられていますので、どの学部・学科の人でも安心して受講できます。 ・1回90分の授業は、45分ずつ前半と後半に分かれます。各大学が用意した動画等を事前に視聴したうえで、小グループでの意見交換をおこないます。楽しく学べますし、他学科の人とも交流ができる授業です。 ・15回は、国連大学による導入部分（第1・2回）に続いて、第3～14回は【開発・国際】【環境・持続】【経済・投資】【外国・共生】【ジェンダー・人権】【参画・変革】をテーマとする各2回の授業から構成されます―どちらかといえば前半は変化をもたらした事例、後半は理論的な内容から成ります。 ・全15回授業のファシリテートおよび第11回の講義は、濱西（地域連携・SDGs推進センター長／SDG-UP担当／現代社会学科）が行います。国連大学が学部向け授業に関わるのは初めてのことで、国内の大学がこれほど連携して構築する授業も日本初です。 ・SDGsの実践、とくに社会的企業、ソーシャルビジネスに関心のある方は、濱西担当の「現代社会学特講Ⅲ」（他学科開放科目）も受講してみてください。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	SDGsの歴史的背景と各ゴールの理論的背景を理解し、説明できる。			知識・技能	
2	SDGsの進捗状況、及び日本と他国の多様な主体の取り組みについて評価体制や方法を理解し、説明できる。			知識・技能	
3	SDGsの求める変化や行動について先進的取り組み事例を通して、その駆動要因を考察できる。			思考・判断・表現力	
4	地球と社会のサステナビリティについて自分事として内化し、その行動指針を表現することができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	討論等のアクティブラーニングへの参加：20%			3/4	
2	アサインメント（事前の動画視聴など、授業への取り組み）：30%			1/2	
3	全体を振り返るエッセイ／ファイナル・レポート：50%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					

授業予定一覧	
1. 授業概要・イントロダクション 2. 共通の前提（UNU-IAS） 【開発・国際】 3. SDGsを考える～アフリカ地域と食料問題を中心に～（東京外国語大学） a. アフリカからSDGsを考える b. SDGs目標2と食料への権利～アフリカの事例を中心に 4. SDGsをめぐるグローバル・ガバナンス（国際基督教大学） a. 変わる多国間外交 【吉川元偉元国連大使】 b. SDGsとコーポレート・ガバナンス c. 持続可能な開発の第4の柱論争とガバナンス 【環境・持続】 5. SDGs13と14に関連する学術活動としての気候科学と海洋科学（北海道大学） a. 気候モデルってなに？ b. 北極域の海洋科学 6. SDGsの潮流とカーボンニュートラルの実践（東京都市大学） a. サステナビリティ概念の歴史の変遷 b. SDGsの本質 c. 気候変動による影響はいくらか d. サーキュラーエコノミーで実現する脱炭素社会 【経済・投資】 7. SDGs と ESG投資（上智大学） a. SDGs と ESG 投資 b. 年金資金と社会課題解決 c. 気候変動問題等と機関投資家 d. 国連責任投資原則（PRI）とSDGs e. インパクト投資と社会的インパクトの評価 f. インベストメント・チェーンにおける各経済主体の効果的な協働 8. ヒトとヒト、ヒトとモノ、モノとモノのつながり（愛媛大学） a. SDGsのサプライチェーンとバリューチェーン b. LCAによる可視化のためのグループワーク c. LCAの振り返り 【外国・共生】 9. アジア（中国・韓国）と日本のSDGs活動を学ぶ（神奈川大学） a. アジアの近隣諸国（中国、韓国、台湾など）で進められているSDGs活動事例分析 b. 日本（横浜と神奈川大学の事例）のSDGs活動との共通点と相違点分析 10. 日本における移民・外国人の受入れとSDGs（関西学院大学） a. 日本に住む外国人の特徴と「ビジネスと人権」の新潮流 b. 外国人労働者の子弟の教育と医療の改善に向けて 【ジェンダー・人権】 11. 行動と変化から学ぶSDG5実践編（ノートルダム清心女子大学） a. 身近な問題から b. 各地の男女共同参画基本計画から 12. ジェンダー基礎論・組織を強くする評価「お茶大インデックス」から（お茶の水女子大学） a. ジェンダー平等は17のゴールを横断する b. ジェンダー・ダイバーシティと組織を強くする評価 【参画・変革】 13. 歴史文化遺産を通したESD（奈良教育大学） a. ESDの概要 b. 歴史文化遺産を通したESDの実際 14. 持続可能な未来を創る～わたしたちのシティズンシップ（東海大学） a. 持続可能な未来への変革を導くのは誰か～現代社会における市民とその力 b. 市民による社会参画の意義と方法 15. まとめ	
試験等	
期末レポート	
試験のフィードバックの方法	
Google Classroomを用いて行う。	
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間	
（予習）各回の事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと（各回2-3時間程度）。	
必携書（教科書販売）	
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考	
必携書・参考書（教科書販売以外）	
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考	
Google Classroomにおいて、各回授業の自学習用の動画や資料PDFを掲載する	
オフィスアワー	
メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。	
連絡先	
hamanishi@post.ndsu.ac.jp	
留意事項	

女性の自立を考える					単位数	2単位
授業コード	18700	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2024年度第1期	
担当者氏名	二階堂 裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）	1 講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
女性の社会的活動がますます求められる今日、持続可能なキャリアデザインについて主体的に学び、未来へと続く自らの生き方や働き方を選び取っていくことが必要となっている。そのため、本授業では、さまざまな研究領域の視点から仕事、生活、人間と社会の関わりなどについて多面的に学ぶ。そのうえで、仕事はもちろん、人生を豊かに過ごすために必要なこと、および女性の自立に向けた課題について検討する。また、各講義をふまえて、受講者がいくつかのグループに分かれ、女性の自立に関するテーマについて討論を行う。そこで明らかになったことを各グループで報告するほか、各自が本授業の成果としてレポートにまとめる。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	社会的・職業的自立に向けて、どのような能力や態度が求められるかを、広い視野から説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力	
2	自分らしい生き方とは何か、今後どのような力を養うべきかについて、主体的に考えることができる。				思考・判断・表現力／主体性	
3	物事を多面的に捉える力や論理的に思考する力を身につけ、学んだことを実践に移すことができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4						
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度：20%				1／2／3	
2	課題：20%				1／2／3	
3	レポート：60%				1／2／3	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. オリエンテーション：趣旨説明（二階堂裕子） 2. 講義（公衆栄養学）：健康と食生活（焰硝岩政樹） 3. 講義（食品学）：食と栄養（吉金優） 4. 講義（高齢者福祉論）：つながりの地域で豊かに生きる（濱崎絵梨） 5. グループ討論：第2回から4回の講義をふまえた討論（二階堂裕子） 6. 講義（日本近代史）：女性と政治-歴史から考える（久野洋） 7. 講義（住環境学）：住まいと地域-歴史から考える（成清仁士） 8. 講義（臨床心理学）：女性性と男性性-精神分析の視点から（日下紀子） 9. グループ討論：第6回から8回の講義をふまえた討論（二階堂裕子） 10. 講義（図書館情報学）：図書館と女性-図書館と女性の関わりについて考える（近藤友子） 11. 講義（文化人類学）：移住先でのネットワーク形成と文化実践（岡田紅理子） 12. 講義（児童文学）：児童文学作品に見る”女の子の生き方”（片平朋世） 13. グループ討論：第10回から12回をふまえた討論（二階堂裕子） 14. 講義（宗教社会学）：純真女子学園における原爆の語り（福田雄） 15. 総合討論：第14回、および全体の講義をふまえた討論（二階堂裕子）						

